

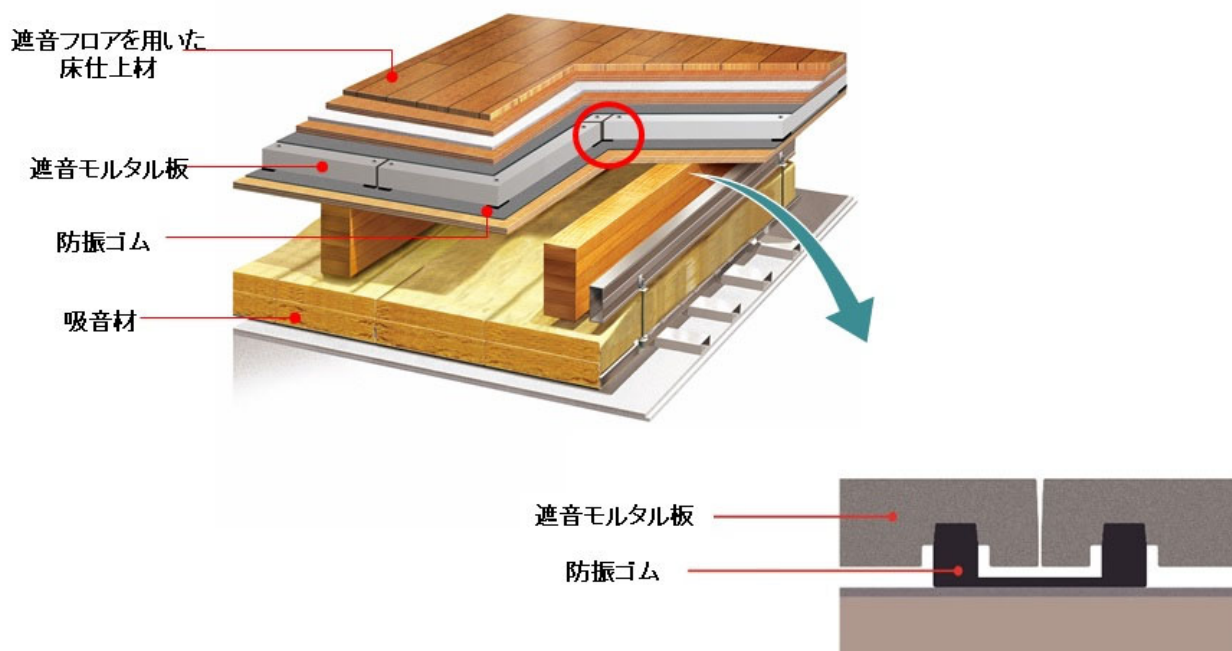
業界最高レベルの高遮音床を共同開発 賃貸住宅「フォレストメゾン」に採用へ

住友林業株式会社(社長:市川 晃、本社:東京都千代田区、以下住友林業)、住友ゴム工業株式会社(社長:池田育嗣、本社:兵庫県神戸市、以下住友ゴム)、マックストン株式会社(社長:佐藤千枝子、本社:静岡県富士市、以下マックストン)は共同で賃貸住宅向けの高遮音床を開発しました(特許出願済:2018年8月)。住友林業の賃貸住宅「フォレストメゾン」に3月7日より採用します。業界最高レベルの高遮音を実現した床で、快適な住環境を提供できる賃貸住宅を供給していきます。

【特徴】

独自開発したオリジナル部材「防振ゴム」と「遮音モルタル板」を使用し、床への衝撃音を大幅に軽減しました。

住友ゴムが自動車用タイヤで培った配合技術を応用した防振ゴムと、マックストン独自の成形方法による高強度な遮音モルタル板を使用しています。ポイントはゴムの形状です。ゴムシートに突起状のゴムを付けることで、防振ゴムと遮音モルタル板の間に隙間を設け、上階からの振動を防振ゴムで吸収して下階へ伝えない防振構造としました。遮音モルタル板は簡易に施工ができるようサイズと重量を調整しています。



入居者のライフスタイルが多様化する中、賃貸住宅に求められる性能は高まってきています。賃貸住宅の不満に関する調査では、不満に感じることの1位は「上階の足音や声が響く」です((株)LIXIL 住宅研究所より)。遮音性の高い床の導入は賃貸住宅の性能と入居者の満足度を高める上で大切な要素であることが分かります。

今回の共同開発は、住友林業の研究施設である筑波研究所での、実棟に即した実験でLL 値 35、LH 値 50(参考資料を参照)を達成。創業以来「木」を軸に事業を展開してきた住友林業の木の知見と木造住宅のノウハウ、熊本城への制振ダンパー納入実績のある住友ゴムの長年のタイヤ材料研究の知見、住宅建材の開発に携わり続けているマックストンのモルタル成形技術を生かし、連携した成果です。



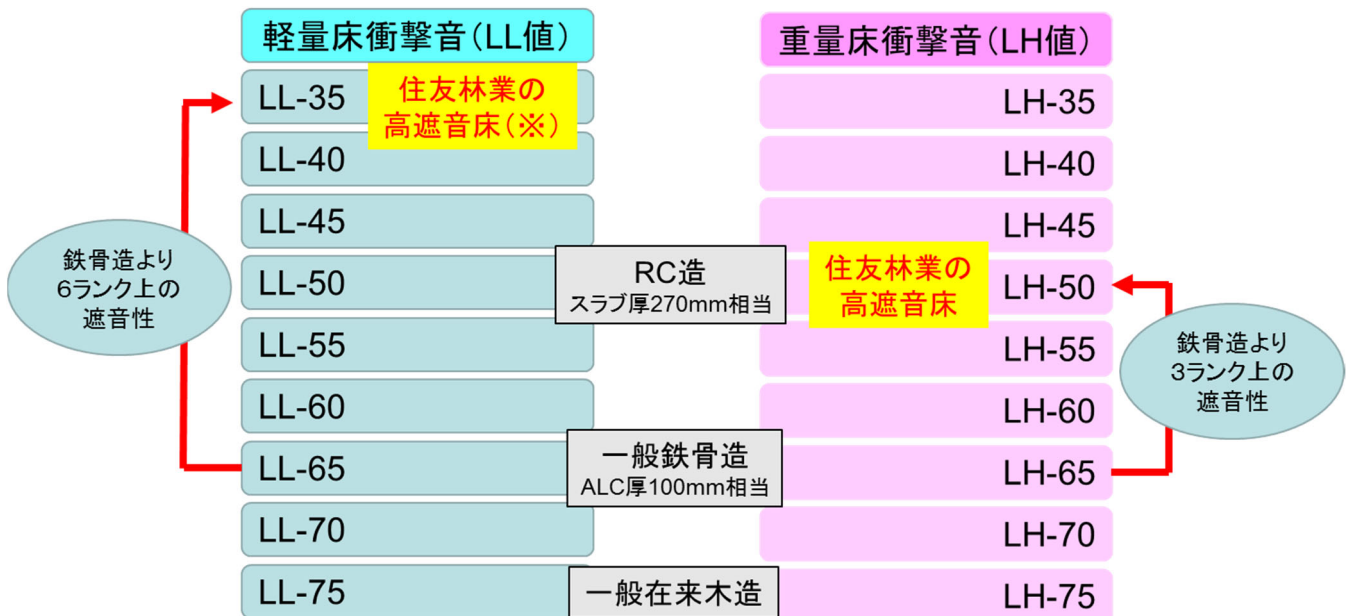
フォレストメゾン 外観イメージ

以上

参考資料

L値とは、床への衝撃音に対する遮音性能を表す単位。値が小さくなるほど遮音性能が高いことを示す。衝撃音の種類によってLL 値とLH 値の2種類がある。

- ・LL 値(軽量床衝撃音): 器物の落下や靴での歩行、椅子の引きずりなどによって発生する比較的軽い音に対する性能。
- ・LH 値(重量床衝撃音): 子どもの飛び跳ねや走り回ることによって発生する「ドスンドスン」という重い音に対する性能。



※床仕上材に一般フロアを用いた場合の値は、LL-50